

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02409

研究課題名(和文) 後土御門内裏における和歌と連歌の総合的研究

研究課題名(英文) Reserchi of waka and renga abouto around Gotsuchimikado

研究代表者

山本 啓介 (Yamamoto, Keisuke)

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50601837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：室町後期における内裏周辺の連歌資料の整備と分析を主目的とし、宮内庁書陵部蔵「賦物連歌」の資料調査・翻刻と分析を行った。主な成果は報告書「宮内庁書陵部蔵『賦物連歌』(上・下)」にまとめた。報告書の主な内容は、所収資料の目録、「賦物連歌」所収の百韻連歌(約340点)の本文の翻刻、その参加者の人名索引である。本報告書の完成により、室町後期から近世にかけての内裏とその周辺での連歌作品の本文整備が進み、関連する人物研究の検索も容易なものとなったと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

室町後期から近世にかけての連歌作品は膨大に残されているが、その中でも宮中やその周辺の良質な資料を多数まとめたものに宮内庁書陵部蔵「賦物連歌」が現存している。同資料の存在はこれまでも注目されてきたが、未翻刻のものであった。同資料の全体が見渡せる目録と翻刻本文が整備されたことで、今後の作品分析がより進めやすくなった。また、連歌の出席者が見渡せる人物作品も作成したことで、人物の交流や動向などの研究もより進むことが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this study was to prepare and analyze Renga around court in the latter part of Muromachi. The main achievements are summarized in the report of "Fushimonorenga". The main contents of the report are a catalog of the materials collected, a reprint of the text of the Hyakuin-Renga (approximately 340 works) collected from the "Fushimonorenga", and an index of the names of the participants. With the completion of this report, the text is easy to read. People are easier to investigate.

研究分野：中世和歌・連歌

キーワード：連歌 賦物連歌 後土御門天皇 後柏原天皇 智仁親王 和歌史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

連歌は集団で行う文芸であり、他者が詠んだ前句に自作を付ける付合の文芸である。世界的にも特殊な、日本独自の文芸と位置づける。幅広い階層に愛好され、能や俳諧に影響を与えたこともよく知られている。さらには和歌の一つの到達点とされる『新古今和歌集』の歌風の特徴とされる三句切れ・体言止め・本歌取りなどにも連歌の影響が想定されることは、これまでも木藤才蔵「新古今時代の連歌 連歌的発想法の成立」(『国語と国文学』31・10号、1954年)等によって、たびたび論じられてきた。ただし、『新古今集』時代の連歌は『菟玖波集』に抄出された一付合部分が限定的に残されているだけであり、連歌の基本的な形式である百韻連歌等は現存していない。そのため連歌の最も重要な特徴である、付合や百韻の中での構成を踏まえた分析は事実上不可能であった。現在の文学研究でも往々にして漠然と「連歌的発想」の影響が論じられることがあるが、その実態の解明には大きな課題が残されていると言ってよい。連歌と和歌との関わりを実作品に即して、より立体的かつ詳細に明らかにするためには、連歌・和歌の作品がともに豊富に残され、かつ連歌の最盛期とされる後土御門天皇時代の内裏を対象とするのが最も適した方法である。この時代の内裏連歌については廣木一人「後土御門天皇家の月次連歌会」(『連歌史試論』、2004年)が古記録を中心に実態の解明を進めた。ただし、実作品と対応させた分析には課題が残されている。こうした課題が残された要因の一つは、後土御門内裏連歌の本文整備が進んでいないことにあった。その重要な資料に宮内庁書陵部の「賦物連歌」がある。同資料は室町後期から近世前期にかけての内裏とその周辺で行われた百韻連歌を大量に所収するものであり、しかもその多くが原懐紙あるいはそれに近い資料である。同資料所収の和漢聯句については『室町前期和漢聯句作品集』(2008年)、『室町後期和漢聯句集成』(2010年)によって紹介・翻刻がなされた。しかし、この長期間にわたる膨大な連歌作品群については、その重要性は認められながらも、全体の詳細な調査や翻刻は行われていない状況にあった。同資料の翻刻と分析を通じて、後土御門内裏連歌の本文整備が大幅に進むことが望ましい状況にあった。

2. 研究の目的

室町期の後土御門天皇の時代に内裏で行われた和歌・連歌の総合的研究を行う。これまでも連歌が和歌に与えた影響については折々に論じられてきた。ただし、資料の制限によって、その実態については解明されていない点が少ない。後土御門天皇の時代は連歌の最盛期とされるものであり、そこで行われた連歌の原資料(原懐紙)も豊富に残されている。本研究は基礎研究として、その原懐紙を多く含む宮内庁蔵「賦物連歌」の精査及び全文の翻刻を行い、本文整備を進める。それを基盤に据え、同時代の和歌と対応させることで、人的交流を明らかにし、和歌史・歌壇史の再整備を行い、その上で、付合文芸である連歌における表現と、和歌の表現との比較分析を通じて、相互の影響関係とそれぞれの文芸の特色を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 後土御門天皇時代から近世前期までの百韻連歌を所収する宮内庁書陵部蔵「賦物連歌」の調査・翻刻を行う。併せて他出文献も調査して補完を行い、後土御門天皇時代の内裏連歌の作品本文集成を作成し、本文整備を進める。

(2) 原懐紙の分析と連歌会場の諸相の解明 「賦物連歌」は連歌最盛期の作品群というだけでなく、連歌の会場の場において書き記され、時には会の後に加筆訂正がなされた原懐紙である。その原資料の筆削なども調査分析することで、連歌会場の場とその後における訂正の実態を明らかにし、連歌文芸の生成の場を解明する。

(3) 後土御門内裏連歌のデータベース化と連歌史・歌壇史の再構築。連歌懐紙はほぼ例外なく張行された年月日と連衆(参加者)を記している。その情報を整理し、同時代の古記録類の連歌会張行の記事と対応させ、各時点における張事情や人的交流を整理する。以上を統合し、年月日・関連古記録・参加者・百韻連歌本文に容易にたどり着けるデータベースを作成する。また、連衆の多くは公家歌人でもあった。同時代の公家歌人については井上宗雄『中世歌壇史の研究 室町後期』が詳しいが、動向が不明であった歌人についても明らかにした点を整理し、歌壇史・連歌史の空白を補足・訂正する。

(4) 連歌会・和歌会場の総合的研究。後土御門内裏では月次で和歌・連歌会が、ほぼ同じ面々で長期間にわたって行われた。連歌会場の場も統合的に考察し、後土御門内裏における和歌会・連歌会の活動の全体像を明らかにする。

(5) 和歌と連歌の表現の横断的研究 後土御門内裏連歌の行様・付合・趣向・修辞・特殊表現等についての分析を行う。その成果を踏まえつつ、『公宴続歌』『再昌草』等が所収する同時代の和歌作品との比較を中心とする考察を行う。和歌から連歌への影響とともに、連歌の場で参加者に共有された連歌独自の修辞法や付合における連想が和歌に及ぼした影響の分析を通じて、和歌と連歌の相互の影響関係と個別の特徴を明らかにし、中世後期韻文学の在り方を考究する。

4. 研究成果

宮内庁書陵部蔵「賦物連歌」の資料調査及び全文の翻刻を進めた。その成果として2018年度報告書「宮内庁書陵部蔵『賦物連歌』(上)」、2019年度報告書「宮内庁書陵部蔵『賦物連歌』(下)」を冊子としてまとめた。以上の成果によって同資料が所収する和漢聯句を除いた百

韻連歌約340点の翻刻本文が整備されたこととなる。併せて、同資料所収の百韻連歌の参加者（連衆）について、人物比定を行った上での人名索引も作成し、これも本年度の報告書に収めた。これらの百韻連歌には官職名や通り名（一字名）だけで記載されている人物も多く、それらの人名が判然としないことが、作品研究あるいは作者研究の上での障害となる場合が少なくなかった。調査が至らずに不明な人物も少なからず残り、全ての人物比定が果たせたわけではなく、可能な限りの分析を行い、索引として完成したことで、人物研究についての現時点での最低限の研究基盤が整備されたと言える。一方で、同資料が膨大なものであり、その翻刻等の基礎作業に多くの時間を割くことになったため、本研究の最終目標としていた、各連歌作品の表現と変化の分析、歴史史料との照応、連歌参加者（連衆）の動向分析等々を踏まえての連歌史の再構築、また和歌との相関関係についての分析などについては多くの課題を残すものとなってしまった。しかしながら、上記の二冊の報告書の完成により、これらの残された重要課題を精査する研究基盤が大きく進んだと言えるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 山本啓介	4. 巻 95-11
2. 論文標題 西行の歌人としての享受について 歌論書の批評と表現摂取を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 67-7
2. 論文標題 連歌関係資料に見える西行歌の考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 8
2. 論文標題 紹巴連歌の特長	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 46-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 4
2. 論文標題 肥前島原松平文庫蔵『石山世尊院千句』の翻刻と解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 いわき明星大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 91-11
2. 論文標題 西行和歌のことばと漢文訓読	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 223
2. 論文標題 『伊勢物語』第六十九段「狩の使」と唐代伝奇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア遊学 『日本人と中国故事 - 変奏する知の世界 - 』	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 39
2. 論文標題 『伊勢物語愚見抄』所引の物語本文について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 123
2. 論文標題 富山藩の連歌について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央大学文学部 紀要 言語・文学・文化	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志・酒井茂幸・武井和人・日高愛子・山本啓介	4. 巻 79
2. 論文標題 室町後期歌会資料集成稿 釈文と略解題 (五)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 研究と資料	6. 最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志・酒井茂幸・武井和人・日高愛子・山本啓介	4. 巻 78
2. 論文標題 室町後期歌会資料集成稿 釈文と略解題 (六)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 研究と資料	6. 最初と最後の頁 11-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 10
2. 論文標題 小松天満宮『集懐紙』について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文資料研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 121
2. 論文標題 京都府立山城郷土資料館寄託「七種連歌」資料について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要 言語・文学・文化	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 68
2. 論文標題 『住吉法楽千句』の技	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 3
2. 論文標題 柿衛文庫蔵『寛永花壇千句』の翻刻と解説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 いわき明星大学 研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本啓介・石澤一志・武井和人・日高愛子	4. 巻 81
2. 論文標題 室町後期歌会資料集成稿 釈文と略解題 (九)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究と資料	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本啓介・石澤一志・武井和人・日高愛子	4. 巻 82
2. 論文標題 室町後期歌会資料集成稿 釈文と略解題 (十)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究と資料	6. 最初と最後の頁 1-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 47-16
2. 論文標題 明智光秀の教養	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 213-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 22-4
2. 論文標題 光秀にあつて秀吉になつたもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北國文華	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 5(33)
2. 論文標題 国立公文書館内閣文庫蔵『百韻連歌集』の翻刻と解説(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療創生大学研究紀要 人文学・社会科学・情報学篇	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本麻子	4. 巻 17
2. 論文標題 国立公文書館内閣文庫蔵『百韻連歌集』の翻刻と解説(二)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療創生大学大学院人文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小山順子	4. 巻 166
2. 論文標題 三條西実隆における『伊勢物語』撰取と注釈	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女子大國文	6. 最初と最後の頁 30-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 綿拔豊昭	4. 巻 40
2. 論文標題 「翻刻 梅林院能俊「伊勢他紀行(仮称)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 365-382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小山順子
2. 発表標題 勅撰和歌集終焉期の女性歌人たち
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「応永・永享期文化論 「北山文化」「東山文化」という大衆的歴史観のはざままで」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本啓介
2. 発表標題 足利義持文化圏の和歌・連歌
3. 学会等名 国際日本文化研究センター 共同研究研究集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小山順子
2. 発表標題 勅撰和歌集終焉期の女性歌人たち
3. 学会等名 和歌文学会関西例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 山本啓介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 121
3. 書名 歌枕の聖地 和歌の浦と玉津島	

1. 著者名 山本啓介・綿抜豊昭・松本麻子・小山順子・廣木一人	4. 発行年 2019年
2. 出版社 リョーワ印刷	5. 総ページ数 571
3. 書名 宮内庁書陵部蔵『賦物連歌』（上）	

1. 著者名 廣木一人・松本麻子編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古典ライブラリー	5. 総ページ数 700
3. 書名 連歌大観 第三巻	

1. 著者名 山本啓介・綿抜豊昭・松本麻子・小山順子・廣木一人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リョーワ印刷	5. 総ページ数 424
3. 書名 宮内庁書陵部蔵『賦物連歌』（下）	

1. 著者名 綿抜豊昭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 近世武家社会と連歌	

1. 著者名 松本麻子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 544(執筆頁は443-461)
3. 書名 前田雅之編『画期としての室町 政事・宗教・古典学』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小山 順子 (Koyama Junko) (20454796)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
研究分担者	綿抜 豊昭 (Watanuki Toyoaki) (30211676)	筑波大学・図書館情報メディア系・教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	松本 麻子 (Matsumoto Asako) (70708990)	医療創生大学・教養学部・教授 (31603)	